

## 能登半島北部沖における空中重力調査

## Airborne Gravity Survey of Offshore Area of Northern Noto Peninsula

# 駒澤 正夫 [1]; 大熊 茂雄 [2]; 瀬川 爾朗 [3]

# Masao Komazawa[1]; Shigeo Okuma[2]; Jiro Segawa[3]

[1] 産総研・地質情報; [2] 産総研・地質情報; [3] 東京海洋大学

[1] GSJ,AIST; [2] GSJ, AIST; [3] Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.

能登半島北部沖で浅部地下構造を広域的に把握するため2008年10月にヘリコプターを使った空中重力調査を行った。測定測線は海岸線に沿った東北東-西南西方向に8本、交差測線を3本取り、ほぼ2km間隔で沖合20kmまでに配置した。総測線長は約700kmである。調査結果は、陸側から沖合いに向かって重力異常が減るなど陸上及び船上重力データとも整合するもので精度が確保されていることが判った。また、海底重力調査から判明した輪島湾の低重力異常などの局所的な構造も見出され10km程度の構造分解能を持つことも判った。